発達障害児童が在籍する学級づくりと 教師のストレスとの関係

○藤吉晴美¹・森 康行²

(¹ 吉備国際大学心理学部 ² 勝央町立勝間田小学校)

キーワード: 発達障害, 学級づくり, 教師のストレス

The investigation of relationship between class management and stress of teacher who have children with developmental disabilities

Harumi FUJIYOSHI, Yasuyuki MORI,

(¹ School of Psychology, Kibi International University ² Syouou Town Katsumada Elementary School)

Key words: developmental disabilities, class management, stress of teacher

目 的

文部科学省 (2012) による実態調査結果では、通常学級における発達障害児の割合は 6.5%とされている。こうした児童への対応・指導について悩みをかかえている教員は多いと増田 (2014) は述べており、発達障害児の個別ニーズに対応した教育・支援を行いつつ、ひとつの学級をまとめていくことによる担任教師のストレスは計り知れない。しかし、どのような学級づくりが担任教師のストレスを低減させるかについては、筆者らが知る限り検討されていない。

本研究では、「発達障害傾向のある児童が在籍する学級の教師用学級づくり尺度 (森・藤吉, 2018)」を用い、学級づくりの工夫とストレス反応との関係性を調べ、教師のストレス低減につながる学級づくりの工夫を明らかにすることを目的とする。

方 法

対象者: A 市公立小学校 12 校、発達障害傾向のある児童が在籍する通常学級担任教師 127 名 (男性 62 名, 女性 65 名: 平均年齢 33.95 歳, $SD=9.69$)。そのうち、高ストレスと判定された者は 19 名 (男性 13 名, 女性 6 名: 平均年齢 33.58 歳, $SD=10.70$)。抽出は、職業性ストレス簡易調査票 (厚生労働省, 2016) マニュアル記載の判定方法に従った。

調査時期: 2017 年 8 月下旬～9 月下旬。

質問紙: (1) 発達障害傾向のある児童が在籍する学級の教師用学級づくり尺度 (森ら, 2018) (以下、学級づくり尺度とする)。5 因子, 24 項目, 6 件法。

(2) 職業性ストレス簡易調査票の 1 因子。ストレスによっておこる心身の反応 (以下、ストレス反応とする)。6 尺度, 29 項目, 4 件法。

倫理的配慮: 吉備国際大学倫理委員会の承認を得て研究を進めた。研究趣旨は、文書と口頭にて B 市教育委員会学校教育課および協力小学校に説明し協力を得た。

結 果

1. 全対象者における重回帰分析の結果 学級づくり尺度を説明変数、ストレス反応尺度を目的変数として重回帰分析を行い、 $\beta=.20$ 以上の影響のあったものを Figure 1 に示した。(1) 〈該当児童への配慮〉が〈疲労〉に正の影響を示していた。(2) 〈該当保護者へ接する時の配慮〉が、〈疲労〉〈不安〉〈抑うつ〉に対して負の影響を示していた。

2. 高ストレス群における重回帰分析の結果 学級づくり尺度を説明変数、ストレス反応尺度を目的変数として重回帰分析を行い、 $\beta=.20$ 以上の影響のあったものを Figure 2 に示した。(1) 〈該当児童への配慮〉〈職員間の意識の共有〉が、〈抑うつ〉に対して正の影響を示していた。(2) 〈該当保護者への配慮〉が〈抑うつ〉に対して負の影響を示していた。

$\beta=.20$ 未満のパスは省略 * $p<.05$ ** $p<.01$

Figure 1 全対象者における学級づくりの工夫が
ストレスに与える影響

$\beta=.20$ 未満のパスは省略 * $p<.05$ ** $p<.01$

Figure 2 高ストレス群における学級づくりの工夫が
ストレスに与える影響

考 察

本研究では、発達障害児童が在籍する学級における学級づくりの工夫が、教師のストレス反応に及ぼす影響について検討した。その結果、(1) 該当児童への配慮はストレスを増加させること、(2) 保護者への配慮はストレスを低減させること、(3) 高ストレス群は、職員間での意識の共有がストレスを増大させることがわかった。学級に発達障害児が在籍している場合、校内で協力体制を整えることや情報共有することが推奨されている (松本ら, 2014)。しかし本研究の結果から、高いストレス状態の教師にとっては、それが心理的負担となることが示された。